

飯山線みどころマップ

「日本のふるさと」を見つけろ旅



Iiyama Line Area Revitalization Council

QR

The Iiyama Line sightseeing train

"OYKOT"



コンセプト

「おいこつと (OYKOT)」は、飯山線を走る観光列車です。この名前は「TOKYO」を逆に並べた言葉で、都会の喧騒を離れて、自然豊かな地域を旅しながら、くつろぎのひと時を過ごせるように設計されています。



あの日に帰るふる里旅行。

車両デザイン

車両は、日本の伝統的な民家をイメージしています。襖や障子などのデザインを取り入れ、車内には木製の造りや懐かしい柄をあしらうなど、「おばあちゃんの家」のような温かく落ち着いた雰囲気を感じられます。車窓からは、今も自然と共に暮らす民家の風景を楽しむことができます。



「ふるさと」のモチーフ

沿線地域である中野市出身の作詞家、高野辰之が作詞した有名な唱歌「ふるさと」には、「山」、「川」、「兔」、「小鮒」など、日本の田舎を思い起こさせる言葉が綴られています。おいこつとでは、この曲に描かれた情景をイラスト化し、車体や車内のランプなどにデザインを使用しています。



「すげぼうし」で記念撮影

すげぼうしは、沿線の雪深い地域で雪よけとして使われてきた伝統的な頭巾です。材料の「すげ」はイネ科の植物で、しなやかで強い繊維を持ち、水にも強いため、この地域の湿気を含んだ雪から身体を守るのに適しています。車内では、このすげぼうしをかぶり、記念撮影を楽しむことができます。



Chikuma river

(Shinano river)



日本一の河川

千曲川は全長367kmに及ぶ、日本で一番長い河川です。飯山線の多くの区間が千曲川と並走しており、車窓からは雄大な川の流れとともに、周囲の山々や集落の美しい景観を楽しむことができます。



地域によって名前が変わる?

この河川は長野県から新潟県へと流れており、県によって名称が異なります。長野県内では「千曲川」、新潟県内では「信濃川」と呼ばれています。「千曲」は「千にも及ぶ(多くの)曲がりくねった流れ」を意味し、川が蛇行している特徴に由来します。一方、「信濃」はかつて長野県を指していた呼称であり、「信濃国から流れる川」として名付けられました。

人々の暮らしと千曲川

千曲川は、古代から流域の人々の暮らしと深く関わってきました。特に、その水は農業用水として利用され、稲作を支える重要な役割を果たしてきました。近年では、クリーンエネルギーである水力発電にも活用されており、豊富な水量を利用した発電が行われています。飯山線の前身である「飯山鉄道」の敷設(1917~)においては、水力発電所の建設資材を運搬する目的で電力会社からの投資がなされ、これが重要な資金源となりました。



Trivia

現在も、西大滝駅近くに位置する「西大滝ダム」から取水する「信濃川発電所」が稼働しており、その累計発電量は日本一を誇ります。